

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	船橋市こども発達相談センター ひまわり親子教室		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 9日		令和6年 12月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 18名
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 25日		令和6年 12月 26日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 7日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子通室なので、お子さんの様子を保護者と共有しながら支援することができる。また、保護者は必要時にいつでも職員に相談できる。	・児童発達支援計画やモニタリングシート等、支援状況を保護者にわかりやすい言い回しで作成し、共有できるようにしている。 ・療育後には、職員間でお子さんの姿を振り返り、共有した上で次の支援へと繋げている。 ・保護者からの相談は、全職員で状況に応じた対応を考えた上で、対応するようにしている。	・より良い支援を行うために、今後も保護者とのコミュニケーションを丁寧に行い、信頼関係を築くように心掛ける。また、聴く力、聞き取る力等職員の資質向上に努める。
2	・同じ悩みを持った保護者同士が思いを共有したり、励まし合ったりすることができる。	・職員は、お子さんが安心して保護者から離れて遊べるように関わることで、保護者同士での情報交換やコミュニケーションの場を設けている。	・職員と安心して楽しく遊べるように環境を整えていく。
3	・職員間で日々の療育のフィードバックを行い、より良い支援が出来るよう意見交換をし、療育プログラムの見直しや対応方法の検討をする等している。	・全職員が各種研修を受講し支援の質の向上に努めている。	・各種専門職員や外部講師による療育内容の評価を受け、支援の充実を図る。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・専門職の巡回等はあるが、回数が少なく時期も限られているため、利用者の入室時期によってはその機会がないことがある。	・こども発達相談センター組織内の事業所であるため、巡回についてはセンターに依存している状態である。	・こども発達相談センター専門職との連携強化。
2	・近隣に公園が少なく、大型車両の通行が多い。	・マンションが立ち並び、商業地域でもあり、高速道路に直結している道路がある。	・遊歩道や人通りの少ない歩道を利用する等して、安全に留意していく。また今後も繰り返し保護者にお子さんとの手のつなぎ方や危険のない立ち位置等、丁寧に知らせていく。
3	・通室時に利用できる専用駐車場がない。	・複合施設であるため、施設内の駐車場を教室通室者が長時間停めることは難しい。	・入室前に、車での通室希望の方にはもう一方のたんぼ親子教室には駐車場がある旨を伝えたり、近隣の駐車場を利用していただくことになる旨を伝えている。